

令和7年度 文化スポーツ部組織目標

組織名	文化スポーツ部	部長	高田 章子
組織の目的・方向性	市民一人ひとりが心身ともに充実した生活を送ることができるよう、文化芸術・スポーツの振興を図るとともに、次代を担うこどもたちの豊かな感性や創造力の育成に取り組みます。 また、文化芸術・スポーツの持つ多様な価値を、観光や産業、まちづくり、国際交流、福祉、教育などの分野に幅広く活用し、まちの活性化を目指していきます。		
(参考) 関連する総合計画における政策指標*	・文化芸術活動（鑑賞を含む）を行う市民の割合 ・文化的な環境への満足度 ・週1日以上スポーツをする市民の割合 ・スポーツ環境への満足度		

※政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

文化スポーツ部組織目標

人口減少や少子高齢化、価値観の多様化といった社会情勢の下、文化芸術・スポーツの分野においても公募事業の応募者数、文化スポーツ施設の入館者数、各種イベントの参加者数にも減少傾向が見られ、持続可能な文化芸術活動、スポーツ活動としていくための取組が必要です。市民が今後も引き続き、文化芸術活動や、スポーツ活動に親しむ機会の充実を実感できるよう、文化芸術・スポーツ活動を振興していきます。

次代を担うこどもたちの豊かな感性や創造力の育成とともに、スポーツを通じて楽しさや喜びを得る機会を提供するための指導者の育成、アスリートの育成・強化に引き続き取り組むほか、市民の地域への誇りや愛着の醸成を図るため、地域に根ざした文化を適切に保存・継承していきます。

文化芸術・スポーツの持つ多様な価値観を他分野と連携させ、文化創造都市としての本市の魅力を高め、交流人口の拡大、まちの活性化に役立てていきます。

この方針のもと、今年度は、次の5つの目標に重点的に取り組みます。

重点目標

- 1 市民が文化芸術を気軽に鑑賞・体験・創作・発表できる機会を提供するとともに、公募事業においては、作品規定の見直しや、美術講座、創作教室等の開催により、応募者の増に取り組むほか、文化施設における様々な公演、展示等を通じて、市民の文化芸術活動を振興します。
- 2 スポーツを取り巻く様々な環境の変化に対応しながら、スポーツ環境の充実や指導者の育成など、ハード・ソフト両面から市民のスポーツ活動を支えます。また、鳥屋野運動公園野球場の供用開始に向け、基本計画を策定します。
- 3 こどもたちの豊かな感性や創造力を育むため、子ども向け文化プログラム体験事業においては、本市の文化の多様性を感じてもらうため、複数の区を跨ぐコースを新設するなど、文化芸術を鑑賞・体験する機会の更なる充実を図ります。
- 4 文化財等を着実に次代へ継承できるよう、旧齋藤氏別邸庭園などの文化財の保存に向けた整備や調査を計画的に行います。
- 5 本市の特色あるみなとまち文化やマンガ・アニメ文化、鉄道文化などを磨き上げるとともに、国際・全国大会や合宿の誘致、イベント等の開催などにより、文化・スポーツを通じた交流人口の拡大や共生社会の実現を目指します。

マンガ・アニメ文化の他分野連携に向けて産学官連携で意見交換し、アイデアの実現に取り組むほか、スポーツにおいては日米大学野球選手権大会を開催し、観戦体験を通じたスポーツの推進やまちに賑わいづくりに繋がります。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況	目標数	5	達成数	4
取組結果	1 新潟市美術展、にいがた市民文学などの公募事業を通じて、市民が創作・発表することができる機会を提供しました。応募者数は目標に至らなかったものの、近年減少傾向が続いている中で、新潟市美術展、にいがた市民文学のいずれも前年度実績を上回りました。 2 所管するスポーツ施設の管理運営を行い、各区所管課や指定管理者と連携してスポーツ施設の利用促進を図り、目標を上回る利用者数となったほか、各種大会の実施やスポーツ指導者の育成など、市民のスポーツ活動を支援しました。また、鳥屋野運動公園野球場の供用開始に向けて関係者や地域との意見交換を行い、基本計画の策定に向けて取り組みましたが、公表には至りませんでした。 3 時代を担うこどもたちの豊かな感性や創造力を育む取組として、プロオーケストラによる演奏会（オーケストラはキミのともだち）を開催するとともに、小学校などへのアウトリーチを実施しました。演奏会の参加者数は、若干目標には及ばなかったものの、前年度に次ぐこれまで2番目に多い参加者数となり、アウトリーチについても、実施校数としては43校でしたが回数としては45回と概ね目標を達成しました。 4 旧齋藤氏別邸庭園保存事業を委員の意見や国県の指導を受けながら滞りなく進めました。また、文化財所有者の相談に対し、関係団体と連携して保護調査を行いました。 5 みなとぴあでは「戦場の町と村 新潟市と戊辰戦争」等の企画展、各種講座、川湊や潟をテーマとしたまちあるきツアーを行い、多くの方にみなとまち文化を知っていただく機会の創出に努め、落雷により約1か月間の臨時休館となったものの目標を上回る入館者数となりました。 新潟シティマラソンを開催し、市民の健康保持・増進を図るとともに、前年度に引き続き佐渡トキマラソンとの連携を通じ、本市の魅力発信や交流人口の拡大を図りました。コロナ禍以降、初めて定員を超える応募となり、県外・海外からの参加者数も過去最高を更新するなど、目標を達成することができました。 共生社会実現に向けた取組である展覧会「あふれる思い ふれる気持ち2025」においては、表現活動調査及び交流支援制度の周知強化を図ったことより応募件数が目標を上回りました。				
今後の方向性	人口減少や少子高齢化、価値観の多様化といった社会情勢の下、文化芸術・スポーツの分野においても文化スポーツ施設の運営や公募事業、各種イベントの開催にあたっては、観光分野をはじめとした他分野との連携を含め、持続可能な文化芸術活動、スポーツ活動としていくための取組が必要です。 次代を担うこどもたちの豊かな感性や創造力の育成とともに、スポーツを通じて楽しさや喜びを得る機会を提供できるよう、スポーツ施設の利用促進・整備を進め、指導者の育成などに引き続き取り組むほか、市民の地域への誇りや愛着の醸成を図るため、地域に根差した文化を適切に保存・継承していきます。 また、県外・海外からの参加者数が過去最高となった新潟シティマラソンなどの実績を踏まえながら、文化芸術・スポーツの持つ多様な価値観を他分野と連携させ、本市の魅力を多方面に発信し、交流人口の拡大、まちの活性化に役立てていきます。				